

ワークショップ形式でなされるとともに、例年実施している参加者が事前に標本を検討した上で討議する標本検討会が行われました。細菌では東北各県の細菌担当者および支所職員など計17名が参加し、動衛研細菌・寄生虫研究領域の高松大輔主任研究員の「ヨーロッパ腐蝕病菌」、動衛研寒地酪農衛生研究領域の秦英司主任研究員の「北海道におけるマイコプラズマ性乳房炎の発生調査」の講演とともに、東北各県からの事例発表がなされ、活発な討論が行われました。

第31回東北地域病性鑑定担当者会議（ウイルス、生化学）および第7回東北地域放牧衛生担当者会議（放牧衛生）は、平成23年10月19日、20日の両日、ウイルスは支所会議室で、また、生化学と放牧衛生は七戸中央公民館および支所実験室で開催されました。参加者は東北各県の家畜保健衛生所、家畜改良センターおよび支所職員などで、ウイルスには18名、生化学には10名、放牧衛生に19名が出席しました。ウイルスでは動衛研ウイルス・疫学研究領域の小西美佐子主任研究員から「山羊関節炎・脳脊髄炎～わが国における診断法と疫学につい

て」、恒光裕ウイルス・疫学研究領域長から「養豚における常在性ウイルス感染症」の講演および各県からのウイルス病関連の事例報告がなされました。生化学と放牧衛生は東京電力福島第一原子力発電所事故に関連して第1日目は合同で放射能関連の話題を取り上げ、動衛研病態研究領域宮本亨領域長補佐の「放射能の基礎」、福島県県中家保の松本裕一副主任獣医技師の「福島第一原発事故に伴う家畜保健衛生所業務についての紹介」の講演と原発事故に伴う東北各県の対応状況について報告がなされ、第2日目はそれぞれ分かれて、生化学は公民館で東北6県の事例報告、放牧衛生は支所実験室でマダニやアブの採取法と分類、血液塗抹標本の作成と観察などの実習が実施されました。

東北各県の家畜保健衛生所の技術支援、関係機関相互の情報交換、連携協力を図るため東北支所が企画、運営する協議会および検討会などはそれぞれ来年度も開催する予定です。協議会および各部門別検討会などを開催するに当たり、講師はじめ各県運営委員など関係各位の多大なご協力に対し深く感謝申し上げます。

## TOPICS

### 動物衛生研究所 90 周年記念式典および記念講演

当研究所は、大正10年の獣疫調査所官制から数えて創立90周年を迎えました。

記念行事は、平成23年10月28日、講堂において開催され、農林水産省関係機関、関係業界・団体、OB等、

多くの方々の参加を得て盛会のうちに無事終了しました。

この記念行事は、記念式典と記念講演の2部で構成され、第1部の記念式典においては濱岡所長の挨拶、堀江理事長の式辞に続き、

農林水産技術会議会長 三輪睿太郎様（松田研究総務官代読）、消費・安全局長 高橋博様からご祝辞をいただきました。また、第2部の記念講演では、「日本における豚コレラの撲滅」と題して、微生物化学研究所顧問 清水悠紀臣先生からご講演いただきました。

式典では、家畜衛生試験場時代も含めたこれまでの成果・実績について賞賛のお言葉をいただき、私たち職員にとっては、歴史と伝統に培われ90年にわたり継承された知識・技術等を発展させ、次世代へ引き継ぐ使命を強く再認識するとともに、「動物を衛る ヒトを衛る」を理念に、社会から信頼を得られる動物衛生研究所となることを目指し、全職員一丸となって前進していく決意を固めた1日となりました。

（企画管理部審議役 佐藤和利）

